

第 1 期中期目標期間（平成 13 年度～17 年度）の取組みについて

美術振興の拠点としての機能の強化

- 海外の美術館と連携した質の高い展覧会の実施
 - ・マチス展 451,105 人 ・ゴッホ展 518,307 人など
- 我が国の新人アーティストの発掘
 - ・オノデラユキ写真展など
- 創意工夫ある教育普及事業の実施
 - ・ギャラリートーク
 - ・コンサートと講演会の一体化
- 国内巡回展の実施
- 神坂雪佳展などの海外への巡回
- 4 館所蔵作品総合目録検索システムの構築・公開
- 美術図書館横断検索システムの構築・公開（東近美、西美、都現美、横浜美）
- 東京国立近代美術館本館のリニューアル、国立国際美術館の移転・新館開館

入館者サービスの向上など

- 小・中学生の無料化、ジュニアパスポートなどの発行
- 最大 8 カ国語に対応した外国語のリーフレットの作成
- 地域の商店街、観光協会等と連携した広報や、入館料の割引等を実施
 - ・上野地区観光まちづくり（西美）
 - ・北の丸文化ゾーン（東近美）
 - ・駐車場割引（京近美）
- 「友の会」の発足
- 毎展覧会における入館者アンケートの実施
- 年末年始の開館・ゴールデンウィーク中は休まず開館

【自己収入の増加】

独法前 321 百万円（過去 5 年間平均）→ 独法後 487 百万円（中期目標期間平均）

【入館者数の増加】

独法前 117 万人（過去 5 年間平均）→ 独法後 192 万人（中期目標期間平均）

第2期中期目標期間（平成18年度～22年度）の取組みについて

平成18年度の取組み

美術振興の拠点としての多彩な活動の展開

- 研究成果を生かした質の高い企画展を開催
 - ・藤田嗣治展（藤田の全画業を紹介する初めての展覧会）
 - ・エッセンシャル・ペインティング（90年代以降の欧米の絵画動向を紹介した展覧会）
 - ・ロダンとカリエール（西洋美で開催後、仏・オルセー美術館に巡回）
- 新しい芸術表現への取組み
（展覧会の開催）
 - ・国立国際美術館：「小川信治展」，「三つの個展：伊藤存，今村源，須田悦弘」
 - ・国立新美術館：「20世紀美術探検」展，「黒川紀章展」，「文化庁メディア芸術祭10周年企画展」，「異邦人（エトランジェ）たちのパリ」展
（作品購入）
 - ・東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立国際美術館でメディアアート作品を収蔵
- 国立新美術館の開館
 - ・インターネット上で他の美術館等の展覧会情報（1万件）を検索できるサービス「アートコモンズ」を開始
 - ・JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトとして，海外では入手が困難な日本で開催された展覧会カタログをとりまとめ，欧米の美術研究の拠点に送付
- 所蔵作品総合目録検索システムの拡充
- 東京国立近代美術館（本館）及び国立西洋美術館で，「美術館へ行こう A Day in the Museum」を実施
 - ・「特定非営利活動法人 美術ファンクラブ」ほかとの協力により，1月2日を無料観覧日とするとともに，グッズプレゼントなど特別企画を実施
- 国立西洋美術館で，「ウエル.com美術館」プロジェクトを立ち上げ
- 国立美術館キャンパスメンバーズ制度の発足
- 東京国立近代美術館で，MOMATパスポートの販売を開始
 - ・本館，工芸館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展示室を何度でも観覧（1年間有効）可能

ナショナルコレクションの形成・継承

- 本部に留保した作品購入費の活用により，通常の予算配分の中では購入の難しい高額作品を収集
 - ・東京国立近代美術館で，ジャン・デュビュッフェ「草の茂る壁際」を購入
- 国立西洋美術館で，彫刻作品の展示における防災対策として，彫刻展示台の「免震滑り板」に関する追加実験，総括及び特許申請
 - ・この装置については特許を取得し，他館に無償供用を行うことを想定

美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

- 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施
- 鑑賞教育の教材に関するワーキンググループを設置し，①作品解説シート，②ティーチャーズガイド，③美術工作セットの開発について，検討に着手

平成 19 年度の取り組み

美術振興の拠点としての多彩な活動の展開

- 我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会への取り組み
 - ・ 「アジアのキュビズム」展をパリ・日本文化会館で開催
 - ・ 「わざの美：伝統工芸の50年」展をイギリス・大英博物館で開催
- 国立新美術館で、美術団体等への展覧会（公募展）会場提供事業を開始
- 東京国立近代美術館で、本館常設展の音声ガイドを導入
- 国立西洋美術館で、セイコーエプソン株式会社とエプソン販売株式会社からの3年間の支援により「OPEN museum」プロジェクトを発足

ナショナルコレクションの形成・継承

- 京都国立近代美術館で、約900点からなる池田満寿夫全版画コレクションを形成

美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

- フィルムセンターで国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）東京会議を開催
- 第3回アジア美術館長会議を、文化庁・国立美術館の主催により日本で開催することを決定